

[海外学会参加報告]

第14回世界理学療法連盟学術集会参加とバレンツ・クリニック見学

相馬俊雄¹⁾、大西秀明¹⁾、長岡輝之²⁾

6月7-12日の6日間、バルセロナ（スペイン）において14th International Congress of The World Confederation for Physical Therapy（第14回世界理学療法連盟学術集会：以下、WCPT）が開催され、発表を兼ねて参加してきた。

バルセロナは、北海道の函館くらいの緯度に位置し、首都マドリッドに次ぐ人口約150万人のスペイン第二の都市である。約2,000年以上にも及ぶ歴史と独自の言語（スペイン語）による輝かしい伝統文化をもつバルセロナは、サグラダ・ファミリアの建築家アントニ・ガウディ、芸術家パブロ・ピカソに代表される天才を育ててきた都市である。

今回のWCPTには、世界93の国と地域から参加者が集い、演題発表も過去最高の約2,000題がエントリーされていた。日本からも約100題の発表が予定されていたが、当時流行していたSARS（重症急性呼吸器症候群）や、イラク戦争に起因されるテロなどを警戒してか、日本からの参加者は半減以下になったと聞いた。同時に諸外国からの参加者も減少し、ポスター発表場所に演者もポスターもない光景が散在していた。機器展示コーナーでは、海外の各メーカーが趣向を凝らし、機器のデモンストレーションを積極的に行っており、そのパフォーマンスに圧倒された。幸い学会期間中は天候に恵まれ、建ち並ぶ世界遺産を目にしようと、会場へ向かうはずの参加者たちの足先

は、観光名所へと向けられているようであった。

今回、国際学会の舞台で発表するにあたり、事前のポスター作成などの準備、発表時の質疑応答に対するディスカッションなど、さまざまところで英語力のなさを痛感した。その反面、世界の国々で自分と同じ分野の研究を行っている人々から直接意見・指導を受けることができ、今後の研究活動に反映していける良い手ごたえを得ることができた。今後もこの貴重な経験を生かし、更に継続して刺激を得ていきたいと思う。

WCPT終了後、6月13-18日の6日間、今度はバルセロナから北東に約900km離れたバッド・ラガツ（スイス）に移動し、バレンツ・クリニック（以下、クリニック）の施設見学を行った。スイスと聞けば、誰でも山間に広がる牧草地帯に涼しく心地よい風が吹いていることをイメージするが、当日は15年ぶりの異常気象で、6月というのに30℃を越える暑さが連日続き驚いた。スイスのホテルでは、どこも冷房を完備しておらず、滞在中、熱帯夜の部屋で就寝することは非常に耐え難いものであった。

クリニックは、夏はハイキング、冬はスキーが楽しめる山岳の山間に位置し、ベッド数約200床のリハビリテーション専門病院である。地理的にスイスに隣接するドイツ、イタリア、オーストリア、フランスなどか

1) 新潟医療福祉大学 医療技術学部 理学療法学科

2) 新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション部
相馬俊雄

[連絡先] 〒950-3198 新潟市島見町1398番地

TEL・FAX：025-257-4498

E-mail：soma@nuhw.ac.jp

ら訪れる患者も多く、クリニックにホテルも併設されており、1ヶ月間宿泊しながらリハビリテーションを行っている人々もいる。対象疾患は、主に慢性期の中枢神経疾患、腰部・下肢関節疾患の慢性痛などが中心である。リハビリテーションスタッフは、理学療法士（以下、PT）38名、作業療法士（以下、OT）19名、言語聴覚士（以下、ST）10名で、日本のベッド数200床レベルの病院では考えられない、充実し過ぎた人員配置である。その背景には、診療点数の違いが挙げられる。日本では一人のPTが、一日に請求できる診療点数は18単位であり、一人の患者がPT、OT、STを併用している場合は、合計4単位以上請求することはできない。しかし、スイスでは患者が治療を受ける場合、特に診療点数に制限がないため、いくつでもいろいろな治療を同日中に併用しながら受けることができる。（例えば、PT部門において治療室での運動療法と物理療法、

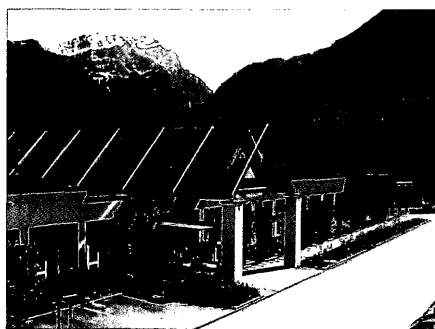
プールでの水中運動療法、屋外での乗馬療法など、さまざまな治療を併用することが可能である。）

また、入院患者の回診において、日本では、医師が病棟に入院している患者のところに行って診察を行うのが一般的であるが、クリニックでは実際にリハビリテーションを行っている治療室に医師自らが出向き、現在施行されている治療プログラムの目的・内容などを担当セラピスト及びその他のリハビリテーションスタッフと共に意見交換を行うシステムになっているところに大きな違いがあった。

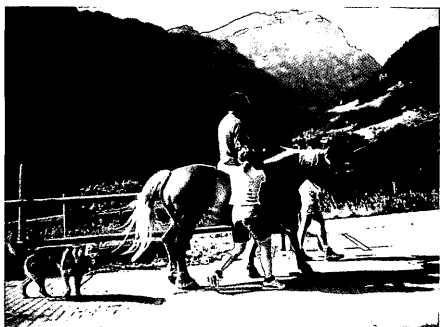
約2週間、スペインでの学会参加、スイスでの施設見学と毎日のように新しいことを見聞し、いろいろな人々と出会い、多くのことを吸収することができた。このような貴重で有意義な時間を過ごした経験を今後の諸活動に生かしていきたい。



WCPT会場のポスターセッションにて
左から大西、Van Hooff氏（オランダ）、相馬



バレンツ・クリニックの玄関



乗馬療法の様子
馬上が脳硬塞後遺症患者、手前がPT



水中運動療法の様子
左から相馬、頸椎損傷患者、長岡